

通信教育部 スクーリング講義概要 執筆要領（S科目用）

■スクーリングで学んでほしいこと【必須】

- ・スクーリングにおいてとくに学んでほしいこと、講義内容の概要などを50字～200字程度で文章化（または箇条書き）していただければ幸いです。

■到達目標【必須】

- ・「到達目標」として学生にスクーリングで修得してほしいことを、3～6項目程度の箇条書きで記載をいただけないでしょうか。
- ・必ず箇条書きをお願いいたします。
- ・「理解する」のような一般動詞ではなく、「～を説明できる」「～について解説できる」等、学習者の行動目標を記述する動詞を使って、「到達目標」を記載してください（参考：東北福祉大学 シラバス作成の要領 http://www.tfu.ac.jp/fd/material/pdf/syllabus_point_2015.pdf）。
- ・「到達目標」はできれば下記「スクーリング評価の基準」と関連させてください。

（例）

- 1) 地域福祉の歴史と理念について説明できる。
- 2) 地域福祉実践の人的社会的資源と、その活用法が事例をあげて説明できる。

■スクーリング講義内容【必須】

- （1）下記記載例のようにコマごとの講義内容をテーマと内容を分けて記載してください。
- （2）コマ数に応じて、最終コマ（8コマの場合は8コマめ）に試験を行っていただきますが、最終コマの前半は8）として質疑応答または講義の時間と記載してください。
- 9）としてスクーリング試験を記載してください。

【8コマの講義の場合の記載例】

（例）

テーマ	内 容
1) 社会保障制度の概要①	子ども手当・年金保険制度
2) 社会保障制度の概要②	医療保険制度・介護保険制度
...	
8) 質疑応答（または最終コマに20分～40分の講義をされる場合はその内容）	
9) スクーリング試験	

■講義の進め方【必須】

- ・スクーリング講義の進め方について記載をお願いいたします。
- （例）配付資料をもとに板書しながら進めます。途中グループワークを行います。
- （例）配付資料をもとに具体的な話題も含めながら講義を進めます。教科書も適宜使用します。
- （例）配布資料をもとにパワーポイントを使用し、途中ビデオなども見ながら講義を進めます。

■スクーリング評価の基準【必須】

- （例）授業への参加状況 30% + スクーリング試験 70%（持込可 or 自筆のノートのみ可 or すべて不可）。試験では、とくに〇〇についての理解を問います。
- （例）スクーリング試験 100%（持込可 or 自筆のノートのみ可 or すべて不可）試験では、とくに到達目標記載内容についての理解を問います。

※学習者が授業の到達目標をどの程度達成したかを客観的に厳格に評価するもので、配分割合を必ず明記してください。

※「出席」を評価対象とすることはできませんので、「授業への参加状況」などとしていただくようお願いいたします。

■スクーリング時の教科書【必須】

(例) スクーリングにあたって、教科書は使用しません。

※S 科目は原則として教科書は使用しないでください。配付資料のみでお願いいたします。

■スクーリング事前学習【必須】

- ・ 予習すべき内容をご指示ください。

(例) 教科書の○章・○章は読んできてください。

(例) 講義内容の関心あるテーマについて、自分なりに学びたいことを考えてきてください。

- ・ 事前学習時間の目安もご記入ください。

(学習時間の目安： 5～10 時間) などと記載してください。

1 単位あたり 45 時間の学習時間を確保することを義務づけられています。事務室で校正原稿に記入させていただきましたが、先生方で適宜修正をしてください。

■スクーリング事後学習【必須】

- ・ 復習すべき内容をご指示ください。

(例) 教科書の○章・○章を復習してください。

- ・ 事後学習時間の目安もご記入ください。

(学習時間の目安： 20～25 時間) などと記載してください。

1 単位あたり 45 時間の学習時間を確保することを義務づけられています。スクーリングの時間に合わせて必要時間を満たすよう事務室で校正原稿に記入させていただきましたが、先生方で適宜修正をしてください。

■卒業までに身につけてほしい力との関連【必須】

- ・ 学位授与方針（ディプロマポリシー）や学部の教育目標との関連で「身につけてほしい力」を記載してください。
- ・ 2017 年～、または現行の学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連で、「とくに身につけてほしい力」としてあがっているものを列挙させていただいていますので、適宜、先生の思う文面に修正ください。

(記載例) とくに、○○、○○を身につけてほしい。

※○○、○○にはディプロマポリシー（D P）の言葉を入れていただければ、と存じます。

(福祉心理学科のD P＝2017 年～のもの)

総合的な人間理解力、根拠に基づく情報発信力、批判的・創造的思考に基づく問題発見・解決力、共感と自己尊重に基づくコミュニケーション力、自己理解に基づくセルフコントロール力、集団理解に基づく対人調整力、心理学の学びを生かした社会貢献力

(社会福祉学科のD P＝現行のもの)

基礎的知識、専門的知識、応用的知識、コミュニケーション力、レポート作成力、情報コミュニケーション技術（ICT）活用力、論理的思考力（クリティカルシンキング力）、問題解決力、自己管理能力、協調性・主体性・リーダーシップ、倫理観、市民としての社会的責任、創造的思考力

■参考図書【任意】

※必要に応じて参考図書をご指示ください。